

(*Veronica spuria* L.)、ぼそはひめくらふ (*Veronica spuria* L. var. *angustifolia* Benth.)、ひめしをん (*Aster fastigiatus* Fisch. ex Mer.)、ふてふふ (*Monochoria Korsakowii* Regel ex Maack.)、ふふねふ (*Anemone japonica* Sieb. ex Zucc.)、ふふなふ (*Anemone cernua* Thunb.)、せんじんふ (*Clematis paniculata* Thunb.)、くちぼたん (*Clematis heracleaefolia* DC. var. *stans* O. Kuntze.) ナドガ其レデアルガ尙ホ其外ニ澤山ナ種類ガアツテ其新材料ニハ決シテ不足ヲ告グル様ナ事ハナク其邊ハ一向心配無用デアル

又花或ハ實ヲ觀賞スベキ木本植物デモ同様改良スベキ山野ノ自生品ガ少クナイ、彼ノほふふしもつけ (*Spiraea salicifolia* L.)、ノ如キ、又ふふふ (*Callicarpa purpurea* Juss.)、ノ如キハ改良セバ好植物トナルデアラウ、今外國カラ來テ能ク世間ニ見ル半藤生ノ美花ヲ開キ繁殖旺盛ナ一薔薇ノ如キモ其片タ親ハ我がてりはのふばら (*Rosa Luciae* Fr. ex Sav. = *R. Wichuraiana* Griseb.) トインデハナイカ

又單ニ觀賞用植物バカリデナク食用植物ニモ野生品ヲ原トシテ改善シ得ベキモノガ若干アル、即チ彼ノあしたば (*Angelica utilis* Makino.)、ノ如キ又ぼたんふ (*Peucedanum japonicum* Thunb.)、ノ如キ之レヲ畑ニ栽エテ充分ニ肥料ヲ與ヘ之レヲもやし式ニ作レバ忽チ食膳ニ上スベキ好蔬菜トナルデアラウト思フガ未ダ誰レモ之レヲ試ミタモノガナイ、又ふふくわん (*Hemerocallis fulva* L. var. *Kwanso* Regel.) ト呼バル、野草モ之レヲ培養セバ野外ノモノヨリハ無論良クナルデアラウト思フ、又しほふ (*Smilax nipponica* Miq.)、モ作ツテ肥大ナモノトセバ今ヨリハズツト立派ナ好蔬菜ト化セシムル事が出來ルノデアアル

私ハ右ニ關シテ今日我邦園藝家ノ奮起ヲ望ンデ止マナイ

○しよりま、かぐま、てんだニ就テ述ブ

理學博士 白井光太郎

しよりま、かぐま、てんだニ就テ述フ

しよりまハあいの語ニテ羊齒ノ事ナリトイフ澁江長伯東夷物産志稿ニ次ノ説アリ「シヨルマ、又シヨリマ、シヨロマなど、云石長生、小雉尾草貫衆等の類吾邦にてしだ、しのぶなどいへる草の屬をすべていふ也ビロ、に毛蕨モヂあり亦シヨリマといふ大沼嶺に貫衆あり亦シヨロマと云或チクニタンバコと云此東都にてし、がしらと稱するもの也其類多しといへども一々しるしがたし」トアルニテ知ルベシ

かぐまハ内地ニテ羊齒ノ屬ヲ呼ブ名ナリシガ如シ秦檣丸寛政七年ノ著述越後七不思議考中臭水ノ條ニ下ノ説アリテかくま草トイフ名出ヅ「越後蒲原那柄目木村新田村南の谷に臭水涌出す火の條下に云如く三品の中燈油に用ゐる品なり此谷間何地にも涌出る其中にも深さ四丈余の井戸あり(地獄坪と云)是より大に涌て民用に足る又東方の谷三丁ばかり奥に本坪と云に廣さ丈餘六角に杭を打高さ六尺ばかりに竹にて垣を周らしたり其水溜りて縹色涌騰する事如熱湯油を取るにかくま草とて蕨の穂の出たる狀の草葉にしめして樽にしぼり入る此谷の中の石腦油の臭氣甚あしく人の質によりて頭痛を悩む事あり云云かくま草此草如薔に東ねて臭水をしめし採るなり」トアリ予此カクマ草ノ標本ヲ得ント欲シ先年越後新發田中學在勤ノ中村正雄氏ニ依頼シテ此草ヲ取寄セテ之ヲ検査セシニリヤうめんしだニ外ナラザリシ又田村西湖ノ豆州諸島產物圖説ニ八丈方言かくまリノ説アリ其圖ヲ見ルニ内地ノこもちしだナルガ如シ其説明ニ「八丈島東山陰地に生ず苗高二三尺狀蕨に似て莖葉共に長大其莖大サ筋の如く其葉鋸齒有て兩々對生す六月葉上花を着く花も亦青くして葉の色と同じ其根大なる者拳の如く長サ四五寸形狗背の如くにして黄赤毛あり」トアリ此葉上ノ花トイフハ子持しだノ葉芽ヲ指セシモノナル事必セリ斯ク遠隔ノ地ニかくまノ名ノ遺存スルハ我邦ニテ古代弘ク行ハレシしだ類ノ方言ナリシヲ證スルモノカト思ハル然ルニ茲ニ又考フ可キハ和名抄ニ黃連ノ和名ヲかくまくまと記スル事ナリかくまくまと名黃連ヨリ羊齒ニ移リシカ羊齒ノ葉ガ黃連ニ似タルヨリ羊齒ヨリ黃連ニ移リシカ此事情ヲ判定スル事ハ頗ル難事ナレドモかくまくまと名ハ羊齒ガ先ニテ黃連ヲかくまくまと名付ケシハ羊齒葉ノ連想ヨリ來リシニハ非ザルカト僕ハ考フ

ルノデアル何トナレハ子持しだノ葉ハ餘リ黃連ノ葉ニ似タ處ガ無イカラデアル

次ニでんだノ意味デアルガ是ハれんだノ轉訛ナラント思ハル先年或人ガ理科大學植物學教室へ舊本草家竹内某所製腊葉數百種ヲ寄附セシ事アリシ時其腊葉中ニいはれんだト記名セシ標品アリシヲ見タリ然レバいはでんだハ元ハいはれんだトモ呼ビシモノナルハ明ナリれんだトスレバ連朶ノ意トナリ葉ノ欠刻ノ並列セルヲ表ハス事トナリ意義アル名稱ト云フ事ヲ得ベシ又おしやごしでんだノおしやごしハ松井某ノ羊齒目錄ニヨレバおしやくじでんだ、おしやごしでんだ木曾社貢司ノ森ニアルヲ以テ名ニ呼ブト云ナリトアリ、聊カ所見ヲ述ブトイフ

○數字ニ敏感デアリタイ

小 南 清

由來植物學ハ精密科學ノ領域ヲ去ルコト遠イ故コノ學ニ携ハル我々ハ數量ニアマリ重キヲ置カヌ爲メ往々數字ニ誤ガアツテモ無關心デアル場合ガ少クナイ、普通ノ文章ニ誤字脱字ガアツタトテ全ク意味ノトレヌ程ノコトモナイガ數字ハ單的ニ或ル感念ヲ表現スルモノデアルカラ一字デモ間違ッテハ意味ヲ成サナクナル、コレヲ使用スルニ當テ一字一畫モ忽ガセニデキヌ、筆者ハ嘗テ雜誌『科學知識』ノ依囑ヲ受ケテソノ餘白ニ面白イ數的問題(コレハ植物學上ノ問題デハナカッタガ)ヲ或ル佛語ノ雜誌カラ抄録シタコトガアツタ、時ノ編輯長ハ殊更ニ筆ヲ加ヘテ書キ改メ全ク無意味ノ數式ヲ作ツテシマツタ、發行セラレタノヲ見テ直ニ正誤ヲ申込ダガ彼ハコレヲ肯ゼズ單ナル誤植ニ過ギズト放言シテ罪ヲ印刷工ニ着セ拭フコトノデキヌ汚點ヲ『科學知識』誌上ニ殘シテシマツタ、誤植ハ印刷物ニ附キ物ノ如ク考ヘ罪ヲ印刷工ニ歸スルノハ「ジャーナリスト」ノ慣用手段デハアルガ決シテ良心アル科學者ノ學ブベキコトデハナイ

細胞ノ發見者 ROBERT HOOKE ガ Micrographia ヲ發行シタ年號ヲ或ル學者ハ一六六五年トシ他ノ學者ハ一六